

〈目的〉 現在家庭科または家政科の調理実習において、計量観念育成を目指す教育がなされている。学校で使用される調理用計量器が、家庭の主婦にどのように使用されているかその実態を知り、先きの教育目標が実生活の場にどれほど活かされているかについて検討することとを目的とした。第一報では主婦が計量器を「台所に所持している」「調理の時に使用する」要因として、主婦の職業・学歴・食生活観ならびに学校時代に計量器を使用した経験の有ることが大きな影響を与えることを報告した。今回は家庭における主婦の計量器使用の実態ならびに、学校時代の計量器の使用経験との相関について検討を行なった。

〈方法〉 第一報と同じく名古屋市内に居住する主婦を対象として、アンケート調査を行なった。調査した計量器の種類は「はかり・計量カップ・計量スプーン・温度計」の四種類である。内容は計量器を使用するようになったきっかけ、使用する理由、料理の出来ばえなどの主婦の使用実態ならびに、学校時代に使用経験のある計量器の種類など家庭科教育との関連についてである。ついで学校時代の使用経験と主婦の使用実態との相関についてクロス集計し、 $\chi^2$ 値検定を行なった。

〈結果〉 学校時代に計量器の使用経験の有る者は、使用するようになったきっかけとして「学校で学んだから」と答えた者の数が多く、また学校で学んだことは「役に立っている」と評価する者が多い。学校時代の計量器使用の経験年数の比較的長い者は、台所に計量器を多く所持している者が多く、かつまた調理の時に使用する者も多い。また計量器を使用する者の方が使用しない者よりも、料理の出来ばえは良好であると答えた者が多い。